

海藻おしば協会：海藻観察記録 勝浦 2025年3月19日（水）

場所：千葉県立中央博物館分館～海の博物館～

講師：菊地 則雄（海の博物館 主任上席研究員）

参加者：15人

天気：曇・雨

干潮時間（勝浦）：13:08（潮位16cm）

【観察会の様子】

3月の勝浦の海藻をじっくり観察しよう！ということで、菊地則雄先生に講師をお願いし磯観察と顕微鏡観察の内容で計画実施となった。当日の天候は曇り～雨であったが、随時状況に応じてタイムスケジュールを変動していただきケガもなく無事終了する事が出来た。

【スケジュール】

10時30分～

- ・座学（海藻・藻類について）
- ・顕微鏡の使い方
- ・磯観察（11時30～12時30）
- 昼休憩
- ・顕微鏡観察をしてみよう（14時～16時）

16時 解散



【座学】

初めて海藻についての座学を聞く参加者もいるため、海藻・藻類の定義など海藻の基礎、空気中に住む藻類であるスミレモはオレンジに見えるのに緑藻類であること、小さな藻類であるケイソウなど普段聞く事が出来ない藻類の話聞き、顕微鏡で観察するにあたって、顕微鏡の使い方（ピントの合わせ方、操作の方法など）を指導いただきながらアオサのプレパラートを作成し表面を観察した。ほぼ全員顕微鏡の取り扱いをしたことが無かったため、田中先生にもご指導いただいた。

肉眼では見えない細胞の美しい姿に驚きと歓声が上がった。

【磯観察】

磯観察をするにあたっての注意事項を確認し実施した。途中から雨が強くなったため磯観察は切り上げる形になった。よく見るとアオサの仲間も色々です。ホンダワラなの仲間は仮根部に注目してみましょう。こう見えて美味しい海藻（カモガシラ）など漂着も含め緑藻・褐藻・紅藻それぞれ全員ケガもなく観察する事が出来た。





ヒトエグサ



カモガシラノリ



サンゴモの仲間



仮根部観察

緑藻：ヒトエグサ・アオサの仲間

褐藻：ヒジキ・ウミトラノオ・シワノカワ・タマハハキモク・イソモク・カジメ幼体・オオバモク・フクロノリ・ハバノリ・イシゲ・イロロ・イソイワタケ・アカモク（漂）・マメタワラ（漂）

紅藻：マルバアマノリ・カバノリ・石灰藻（ピリヒバなど）・カモガシラノリ・ハナフノリ・インダンツウ・カイノリ・オバクサ・ナガキントキ（漂）・マクサ

雨が降り切り上げたが、短い間で岸から近いエリアで20種類以上観察が出来た。



【ノリの食べ比べ】

昼食時に菊地先生特別プログラム。ノリの食べ比べ！4種類のノリを食べ比べた。ツヤ・香・見た目・味など同じ焼きのりにもいろいろある事を食べた。小張さん差し入れの海藻バター（ボルディエバター）も貴重な機会であった。

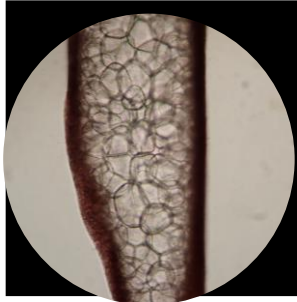
【顕微鏡観察をしよう！】

午後の顕微鏡観察は「切片を観察してみよう」切片の作り方を指導いただきそれぞれ顕微鏡観察を行った。ワカメやアサクサノリの糸状体、準備していただいた海藻の切片や珪藻などそれぞれ見たい海藻を顕微鏡で観察。美しい姿に参加者同士で交代しながらいろいろ観察した。

菊地先生：切片を作る指導



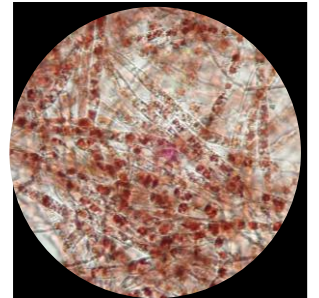
切片観察



海藻観察



糸状体観察



【海藻観察会が終わって】

雨で磯観察時間は短く終わった。博物館バックヤード見学？など検討はされていたが顕微鏡観察はめったにできないため参加者は時間の許す限り観察を楽しんだ。

同じ場所で定期的に観察することの発見もあるため引き続き勝浦での海藻観察会は継続したいと考えている。1人1台の顕微鏡など菊地先生には大変お世話になりました。

記録：高山 優美